新開 輝夫　名古屋高速道路公社理事長

リニア時代迎え もっと便利な 高速道路に ワンチームで 課題にチャレンジ

新開　輝夫（しんかい　てるお）昭和 28（1953）年 11 月生まれ。１９７８（昭和５３）年名古屋市職員に採用。総務局、市民局など経て２００１年総務局人事課長、０４年緑政土木局参事、０８年港区長、１０年市長室長、１２年市民経済局長、１３年から４年間副市長。

名古屋市の元副市長・新開輝夫さんが今年４月に名古屋高速道路公社理事長に就任してから半年。市職員として総務や経済振興などいわばソフト部門を中心に携わってきた新開さんだが、「その経験を生かして新時代の高速道路の在り方を追求したい」と意気盛んだ。（聞き手は、中部財界フォーラム社　塚本隆社長）

――着任されて半年ですが、改めて就任の抱負をお聞かせください。

新開　名古屋市役所では、総務とか、地域、経済振興などを経験しました。そういった経験こそ、これからの時代にお役に立てるのではないか、と河村市長からのアドバイスもあり、前向きに考えました。確かに、道路は街に欠かせない。都市高速道路も名古屋の街づくりと一体です。街がどんどん変わる中で道路も変わるべきだと考えています。時代が令和へと変わり、名古屋高速も来年で公社設立５０周年を迎えます。その時期の理事長就任はとても名誉なことだと思い、歴代理事長の名前を汚さないよう、１７０人の職員の皆さんと一緒になって課題に取り組んでいきたい。

――どんな課題がありますか？

新開　リニア中央新幹線が 2027 年を目標に名古屋まで開業予定で、名駅周辺の人の動きが増える見通しであり、都心へのアクセス向上が課題となっています。そこで名古屋駅近くに都市高速への出入り口の追加、改良が必要ということで、新洲崎や栄などに新たに出入り口を設ける計画があります。さらに都心環状線の渋滞解消とともに中部国際空港へのアクセス向上などを目的として渡り線を追加する計画もあり、高速道路ネットワークの更なる充実に向けた検討を行っています。また 2020 年度には名古屋第二環状自動車道（名二環）の名古屋西ジャンクション（JCT）から南へ伊勢湾岸道の飛島 JCT（仮称）につながる新しい道路も開通する予定ですが、名古屋西 JCT の整備も着々と進めています。一方、高速 16 号一宮線で名神高速とつながっていますが、一宮インター付近の渋滞解消が国交省の懸案と聞いています。それ